

読書で歴史にアプローチする ～ビブリオバトルに挑戦！～

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

梶木 尚美

1. 対象 附属高等学校池田校舎 2年3.4組日本史選択者（36名）

2. パフォーマンス課題「A図書館読書推進プロジェクトに参加する」の設定理由

歴史学は過去を対象とする。過去は今、目の前に存在していないのであるから、見えないものについて想像し、具体的なイメージを自分で描かなくてはならない。また各事象を時代背景の中に位置づけ、因果関係や自然条件との関わりなどについて考えることは、歴史の授業で重視される学びであるが、そのためには当時の文脈の中に自分自身を置く努力が必要である。生徒がこれらを実現し、過去の社会に生きた人々へと真剣なまなごしをむける手段として、読書活動を授業に取り入れる。

歴史を題材にした本は、歴史学者による著作はもちろん、歴史小説も歴史学の成果をベースにしてその時代を描いている。歴史学の著作からは学問的な研究方法と成果を学び、新たな知識を獲得して問題意識を高めることができる。また歴史小説では具体的に設定された過去の世界の中で生きる登場人物に、当事者意識をもって近づくことが可能であり、登場人物を通して歴史に向き合うことができる。どちらにしても、著者は収集・整理した情報に基づいた歴史のイメージで叙述し、読者になんらかのメッセージを送ろうとしている。自分が選んだ一冊の歴史の本を熟読することは、ある時代の社会や文化についての理解を深め、また自分の生活や生き方を考えることにつながる。

本授業は、「お薦め本」紹介文を書くことをめざしたパフォーマンス課題における活動の一つである。各自紹介文を書いた後、“読みたくなるように”5分間スピーチを全員が行い、“最も読みたくなった本”を決めるという流れでビブリオバトルを導入した。自分や他のメンバーのスピーチ、またそれらに対する反応から学びあうことで、さらに魅力的で説得力のある「お薦め本」紹介文を書くことができると考えた。文章やスピーチで本の魅力を伝えるために、という具体的な目的を設定することにより、生徒たちは本をしっかりと読み込んで思考する。ビブリオバトルで出会う多様な本からより多くの歴史像を知り、現在の社会や私たちの価値観、言動などを客観化する機会にもなる。

3 課題の目標

- ・読書を通して日本の歴史の展開について考察し、社会や文化への認識を深める。

4. 評価規準表

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日本史に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究している。	日本史の展開から問いを見出して考察し、適切に表現している。	課題に対応した本を選んで読解し、有用な情報を適切に選択して効果的にまとめている。	日本史についての基本的な事柄を、具体的なイメージを持って理解している。

5. 指導計画（全3時間）

第1次 課題「A図書館の読書推進プロジェクトに参加する」についての説明 15分

[夏休み：各自課題に取り組む]

第2次 紹介文提出とビブリオバトルの説明 15分

第3次 ビブリオバトル ①全員（4~5人グループ） ②決勝 2時間（②本時）

第4次 課題についての説明 20分

[~冬休み：各自課題に取り組む]

6. 本時

(1) 目標

- ・他者の主張を受け止め、自ら問いを立てて歴史的事柄への理解を深める。

(2) 展開

	学習活動	教員の動き・留意点（教・留）	評価の観点
導入	本時の活動内容と流れを確認する。	①教 プリント配布。プレゼンテーションの準備。タイマー設定。	* ①発 発表者 ②参 参加者
展開	ビブリオバトル ①発表者は5分間で本を一冊紹介する。（原稿は読まない） ②参加者が発表者に質問し、発表者は答える。（3分間） [発表者ごとに①～②を繰り返す。] ③参加者は「最も読みたくなった本」に投票する。→チャンプ本の決定。	①教 ビブリオバトルの司会。 ②留 質疑応答、コミュニケーションが進むように支援する。 ③教 投票の指示、投票用紙の回収。	【関・意・態】 ①参 関心を持って意欲的に取り組んでいる。 【思・判・表】 ①参 考察した内容を適切に表現している。 ②参 発表内容に対する問いを持ち、発言している。 【知・理】 ①参 過去の社会や文化について、具体的なイメージを持っている。
まとめ	振り返り ①ビブリオバトルに参加して学んだことを整理し、ワークシートに書く。 ②学んだことを共有し、他者の意見を聞いて学びを深める。	①教 ワークシートについての指示。 ②教 ①の間に投票用紙の開票。 →チャンプ本の発表 ③留 本時にて何を学んだのか、次に何をめざすのかを確認させる。	【関・意・態】【思・判・表】 ①参 ②参 自分の活動を省みて課題を見出し、改善方法を考えている。

*パフォーマンス課題（performance task）は「効果的に行動するために知識を活用する課題、あるいは、ある人の知識と熟達化を明らかにするような複雑な完成作品を実現する課題。……知識だけではなく判断力を刷新し、活用することを学ばなくてはならない。」（参考文献 西岡 2012）と説明される。

（『平成26年度大阪教育大学池田地区附属学校研究発表会 発表資料』2014年11月22日）

パフォーマンス課題「A 図書館読書推進プロジェクトに参加する」

(1) 次の文章を読んで、読書をめぐる状況について考えましょう。

数年前、OECD 学習到達度調査で、日本の子どもは「読書をしない」傾向が強く、また「読解力」のテストが低いという結果が出ました。これらは新聞等で取り上げられ、専門家たちが随分問題にしています。

また文部科学省のHPを開いてみると、ここでも「我が国においては、近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、国民の読書離れ・活字離れが指摘されている。読書することは、考える力、感じる力、表す力等を育てるとともに、豊かな情操を育み、すべての活動の基盤となる価値・教養・感性等を生涯を通じて涵養していく上でも、極めて重要である。…」(子どもの読書サポーターズ会議 2009年)と「読書離れ」について述べられていました。

同じHP上に、新学習指導要領の解説があったので読んでみると、言語活動の充実や図書館の活用など、本を読んで、感じたり、考えたりすることの大切さが強調されています。

「読書をしない」ことが問題になり、読書を推進することが国家レベルの課題になっているというわけです。

(2) こういった状況への対応策として、あなたの町の図書館ではあるプロジェクトが始まり、あなたにも依頼状がきたとします。次の文章を読んで依頼内容を把握しましょう。

夏空がひときわまぶしく感じられる季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。

さて、図書館では読書推進策の一つとして、お薦め本の紹介文集を作成します。実際に読んでみて良かったなあと思った本、ぜひ他の人にも読んで欲しいと思う本がいっぱい収められた文集を作って、市民のみなさんにお届けしたいと計画しておりますので、ぜひご協力ください。

高校で日本史を選択されているあなたには、“日本の歴史”関連の本の紹介文をお願いします。“日本の歴史”に関連して書かれた本であれば、どのような分野でも結構です。紹介文を読んだ人が、「この本をぜひ読んでみたい！」と思うような文をお願いします。

今夏、図書館員も本を読んで紹介文に取り組みます。また本探しや本選びもお手伝い致します。どうぞ気軽に声をおかけください。

厳しい暑さに向かいます折、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

(3) 夏休みの課題は、この依頼に応えることです。1, 2の趣旨を理解し、本を読んで紹介文を書いて下さい。



年 組 番(名前)

(1) バトラーとしての自分を評価する ← 日本史選択者のみ

- 聞き取りやすい声ではきはきと話す
- 相手の顔を見て話す
- 表情豊かに話す
- 導入部分を面白くして関心をもたせる
- 面白そうなところで止め、オチを言わない

→

5

(2) オーディエンスとしての自分を評価する ← 全員

- 集中してしっかりと聴く
- 気になったところを心にとめて、後で質問する
- 考えながら聴く (→ 質問したいことがある)
- 話の内容に対して批判的に考える (→ 質問したいことがある)
- 話を聴いていろいろ想像する (→ 質問したいことがある)

→

5

(3) 新入生に対して、「歴史の本を一冊選んで読む。」という課題が出ました。

という課題に取り組むとします。後輩が、思わずその本を読みたくなるような、魅力のある紹介文を書くにはどうしたらよいでしょうか？

良いライターとは？
ポイントを3つあげてください。

(3) ビブリオバトルに参加すること と 歴史を学ぶこと